

〔「住民自ら考え行動する」住民自治によるまちづくり(北海道ニセコ町)〕

課題（状況）



政策（補助金等）/規制

平成6年ニセコ町長選に住民参加と情報公開を掲げ出馬した逢坂氏が町長に就任、住民が自ら考え行動する『住民の自治力によるまちづくり』が最も重要との認識のもと徹底した情報公開、予算の地域への説明、まちづくり町民講座などを実施、『ニセコまちづくり基本条例』を制定、住民との情報共有、住民参加を制度として確立してきた。

目標



『住民が自ら考え行動する』ことが最も重要であり、住民参加、情報公開はこれを実現する手段である。住民主権のまちづくりを標榜、21年を経た具体的の目標は以下の通り。
・情報公開による住民参加のまちづくり
・豊かな自然と美しい景観を次世代に継承
・生産資源/エネルギー/経済の循環による自律したまちをつくる

地域資源/产学連携等



- ・北海道大学法学部 木佐教授（地方自治研究会で『ニセコまちづくり基本条例』を検討）
- ・北海道大学観光学高等研究センターと連携協定（観光人材育成）
- ・地元銀行、小樽商科大学と共同研究

具体的な取組内容

- ①取組内容・スケジュール
 - ・肩ひじ張らない気楽な住民参加の実現（住民と職員のまちづくりトーク、町長室の開放）
 - ・行政と町民の情報共有と真摯な意見交換（まちづくり町民講座、まちづくり懇談会など）
 - ・情報公開を支えるファイリングシステム（効率的な情報の整理と共有による効率化）
 - ・住民参加による一般廃棄物処分場の整備
 - ・道の駅「ニセコビュープラザ」、学習交流センター「あそぶっく」、ニセコ駅前温泉「綺羅の湯」等
- ②予算 ビュープラザ 約2億2千万円、綺羅の湯 約8億2千万円、あそぶっく 1億6千万円等
- ③推進体制 ワンストップの町民相談窓口課設置（平成7年～15年設置、柔軟な組織改編）

成功要因

- ・町長のリーダーシップと住民とのコミュニケーションのための機会の充実（こんにちは町長室など）
- ・職員の意識変革と様々な研修機会の充実
- ・『ニセコ町まちづくり基本条例』の制定とファイリングシステムによる情報共有・住民参加の保証

成果

- ・行政依存から脱却と住民の責任によるまちづくりの実現
- ・事業所の進出や社会増の実現
- ・計画段階からの住民参加による政策の熟度向上と運営への参加
- ・町民/町出資の事業会社設立と雇用の実現

地域の変化

- ・地域で事業等にチャレンジしようする土壌の醸成（安全で魅力あるスキーを実現するための住民等による『ニセコルール』制定、道の駅出店者の新規出店など）

残る課題

- ・主権者の住民の予算策定への予算/執行/決算/評価などへのさらなる参加の推進
- ・将来にわたり「安心して滞在ができる国際環境リゾート地」を形成する再生可能エネルギー利用の最大化

次の行動

- ・再可能エネルギー活用によるCO₂削減など環境政策の一層の実践
- ・来日視察関係者の受入など海外政府関係者への研修指導等の実施